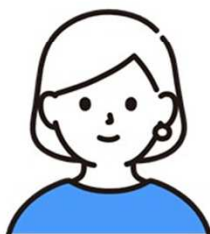
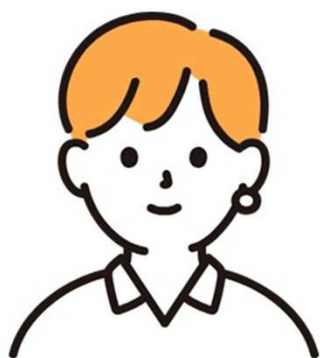


中学生のみなさんへ

LGBTQ+に関する パンフレット



令和6年3月発行

「性の多様性」や「LGBTQ+」って何だろう。

「SNSでよく見かけるけど詳しくはわからない…。」「性自認ってなんだろう。」など、まだまだ知らないことが多いのではないのでしょうか。このパンフレットは、中学生のみなさんに「性の多様性」や「LGBTQ+」、一人ひとりの違いについて尊重する大切さをお伝えするために作成しました。ぜひ、ご活用ください。

● 性を構成する要素について※1

性のあり方は、次の4つの要素から考えることができます。

法律上の性

出生時に割り当てられた性別をもとに戸籍等に記載された性別

性自認

(ジェンダーアイデンティティ)

ある程度持続的に自分の性別をどう認識しているか

性的指向

恋愛感情や性的な関心などの性別に向いているか、向いていないか

性別表現

服装や髪型、言葉遣い、しぐさ等、自分の性別をどう表現するか

自分のことを男性だと思う人、女性だと思う人、どちらでもないと思う人がいます。また、異性を好きになる人、同性を好きになる人、好きという気持ちがわからない人もいます。あなたの性のあり方はいかがですか？

自分の性のあり方について考えてみよう！

- 自分が考えている性別は？
- 好きになる相手はどんな人？
- 自分らしいと思えるスタイルは？



● LGBTQ+について※2

L

レズビアン (Lesbian)

性自認が女性で、性的指向が同性に向く人

G

ゲイ (Gay)

性自認が男性で、性的指向が同性に向く人

B

バイセクシュアル (Bisexual)

性的指向が男女どちらにも向く人。両性愛者

T

トランスジェンダー (Transgender)

生まれた時に割り当てられた性別と性自認が異なる人

Q

クエスチョニング (Questioning)

自身の性のあり方について特定の枠に属さない人、分からない人、決めていない等の人

クィア (Queer)

規範的とされる性のあり方以外を包括的に表す言葉

記号の「+」は、他者に性的に惹かれない人である「アセクシュアル」など、「LGBTQ」以外の多様な性のあり方を表しています。

左記の言葉の頭文字をとって「LGBTQ+」と表記され、性的マイノリティの総称として用いられることがあります。

ある調査では、調査対象者全体に対するLGBTQ+の割合は、**9.7%**という結果※3が報告されています。

※1 ※2 LGBTQ法連合会「LGBTQ報道ガイドライン-多様な性のあり方の視点から-第2版」を参考

※3 出典：電通「LGBTQ+調査2023」(20~59歳のサンプルに対する数値)

● 性の多様性を互いに尊重しよう

あなたの学校や、友達、知っている人にもきつといます。

LGBTQ+の人やそうかもしれないと思っている人は、自分から友達にそのことを伝えられないことがあります。「自分の周りにはいない」と思い込んで、LGBTQ+の方々を尊重しない発言をしていませんか？



☞これらの言葉に対して、LGBTQ+の人たちは自分のことが尊重されていないと感じることがあります。

異性と付き合うのが当たり前で、トランスジェンダーが想定されていない環境では、当事者はLGBTQ+であることを周囲に伝えられず、誰にも相談できずに孤立を深めてしまうこともあります。

社会や学校で広がりつつある取り組み

LGBTQ+や性の多様性について掲載する教科書が増えてきたり、学校の授業で取り上げられたりする事例も出てきています。また、社会や学校では、法律上の性に関わらず、制服を選ぶようにしたり、男女兼用のデザインに変えたりする取り組みが広がりつつあります。

「カミングアウト」※4ってなに？

「カミングアウト」とは、自分の性のあり方を自覚して、自分の意思で誰かに伝えることを言います。

自らの性のあり方を明らかにすることで、差別を受けることを恐れて、カミングアウトに慎重な人もいます。伝える相手は同級生が多いようです。

身近に当事者がいないと思っても、その存在に気づいていないだけで、実は身近に当事者がいる可能性があることも考える必要があります。

「アウティング」※5ってなに？

「アウティング」とは、誰かが他者の性のあり方を本人の同意なく第三者に伝えてしてしまうことを言います。

当事者が相手を信頼して行ったカミングアウトを、本人の許可なく誰かに暴露してしまう行為は、プライバシーの侵害につながる行為であり、当事者に強い不安や緊張状態を与えてしてしまいます。当事者の信頼に応えるためにも、本人以外の誰かに伝える必要があるときには、本人の意向をきちんと確認しましょう。

● 一人ひとりができることを考えてみよう

ここまでは、性を構成する要素やLGBTQ+、周りにも当事者がいるかもしれないということについて紹介してきました。最後に、誰もが安心して学校や地域で過ごすことができ、多様性が尊重される社会になるために、一人ひとりができることを紹介します。

友達から相談・カミングアウトされたら

まずはしっかりと話を聞こう

最初は驚くかもしれませんが、まずは相手の話をしっかりと聞きましょう。

相談やカミングアウトをする理由は人によって様々です。相手がどんな思いで話してくれたのかについても意識してみましょう。

最後まで話を聞いたら、どんな言葉を使ったらよいか考えながら率直な思いを伝えてみてください。分からないことは、丁寧に聞いてみましょう。

誰に話したのか確認しよう

アウティングを防止するという意味でも、誰に話したことがあるのか、どのくらいカミングアウトしているのかということを知っておくことも大切です。

相談窓口

つながる にじいろonライン（一般社団法人SOGIE相談・社会福祉全国協議会）

学校や家族のこと、将来のことなど、セクシュアリティにかかわるいろいろな悩みについて、専門の相談員がLINEで対応しています。

また、ご家族や先生など、ご本人以外の方からのご相談もお受けしています。

詳しくはこちら▶ <https://sogie-j.org>

ラップアラウンドサポート（プライドハウス東京）

LGBTQ+の当事者や、そうかもしれないと感じている24歳以下の子ども・ユースのための無料相談支援プログラム。オンラインでも対応しています。

詳しくはこちら▶ <https://pridehouse.jp/legacy/counseling/>

情報発信や交流会をしています

CoPrism（こぷりずむ）

甲府市を中心として、多様な性のあり方について発信し、どんな性を生きる人であっても、自然体で過ごせる場所を増やしていくことを目的とした団体。

詳しくはこちら▶ <https://coprism.jimdofree.com/>

誰かに相談・カミングアウトしたいと思ったら

話す相手や伝えたいことを考えよう

誰にカミングアウトしたいのか、どんなことを伝えたいかは自分で決めることができます。

伝えたくない人、伝えたくない内容があるときは、無理に伝える必要はありません。

また、相手に対して望むこと（知っていてほしい、支援してほしいなど）もまとめておくといいかもしれません。自分の気持ちを大切にしながら、少しずつ進んでいきましょう。

応援してくれる人を見つけよう

実際にカミングアウトしてみたら、苦しい気持ちや不安になることもあります。そんなときに、自分の気持ちを応援してくれる人や、自分の居場所があることで、「自分には味方がいる」という安心感が心の支えになることもあります。

発行元

山梨県男女共同参画・共生社会推進統括官

〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1丁目6番1号

電話:055-223-1358 FAX:055-223-1320

監修

CoPrism（こぷりずむ）